

南房総・館山地域公共交通活性化協議会設立の目的・経緯

南房総市及び館山市に共通する「地域公共交通」に対し、各市で施策を行ってきたが、本地域では人口減少が進み、地域公共交通を担う事業者においても、乗客減少による収益の悪化や乗務員不足が顕著となるなど、取り巻く状況は年々悪化の一途をたどっているため、生活圏を共にする2市が手を携え、より効率的に地域住民や来訪者にとって利便性の高い地域公共交通網を維持・整備することを目的としています。

現状・課題

- ・2市は、経済面や生活面を共にし、行政区域を超えた住民の移動実態がある。
- ・人口減少、少子高齢化や自家用車の普及により、利用者が減少し続け、公共交通事業者の経営状況が悪化。そのため、路線の廃止も現実的な問題となっている。
- ・今後、地域の公共交通を維持するため、地元自治体の財政負担の増加が見込まれる。
- ・来訪者等の2次交通が確保されていない。
- ・一方、運転免許返納により、移動手段を持たない高齢者が益々増えることが予想される。

経緯

- ・南房総市地域公共交通再編計画の認定審査及び協議を続けている中で、国から「地域の生活圏を面で捉えた公共交通の再編計画が必要」と助言を受ける。
- H30.10月 南房総市より館山市に対し、公共交通会議の合同設置について申し入れ、11月に館山市より合意の回答を得る。
- H31.2月 両市の公共交通会議にて、承認を得る。
- H31.2月 新規国庫補助のトライアル推進事業について県より提案を受ける。
- H31.3月～千葉県との協力のもと、館山市及び南房総市の担当課にて協議を行い、R元年9月に本協議会の立ち上げ予定となる。

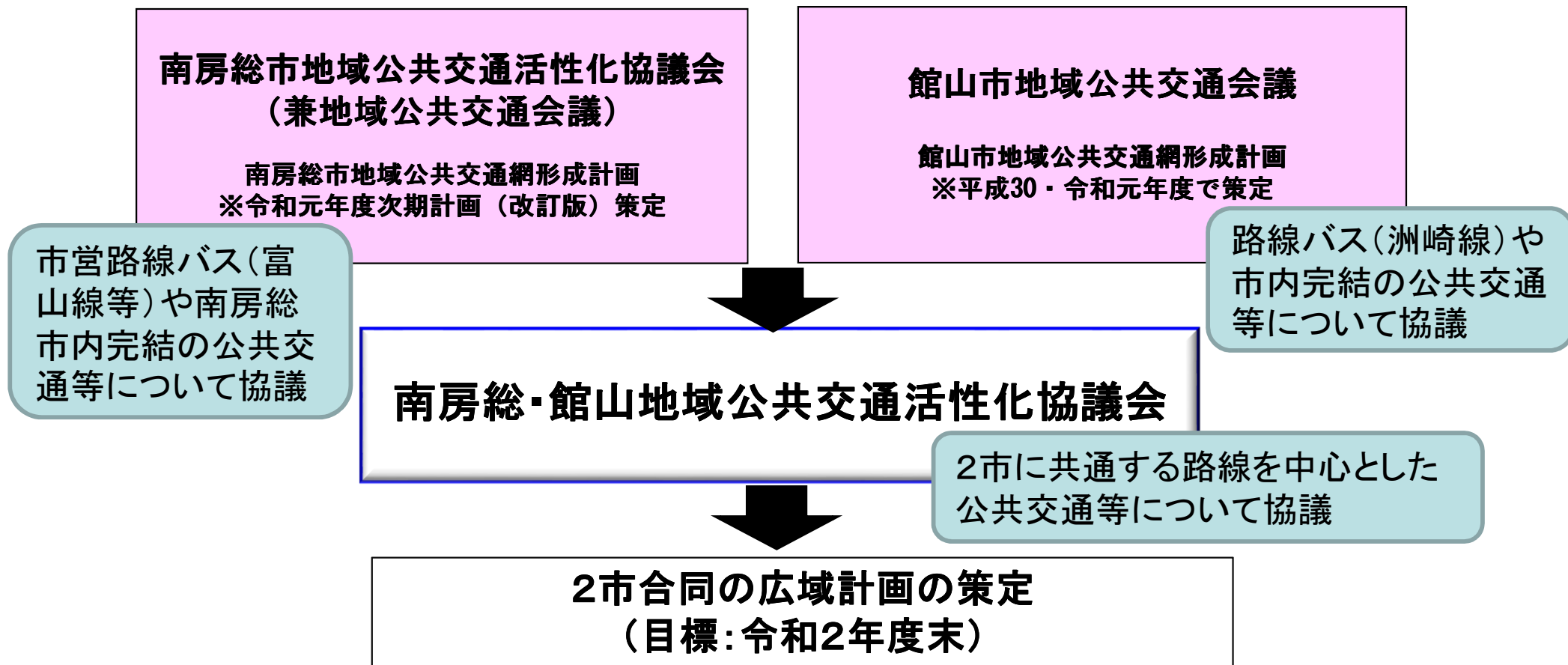
期待する取組み

・2市に共通するバス路線、鉄道、タクシーエリアにおいて、日常的な生活系交通を確保しつつ、まちづくり等の地域戦略と一体となった地域公共交通ネットワークの構築を図る。

<例> 広域的な移動支援として、お買い物を意識したバス路線の運行。

ターゲットを絞った、乗合いバスや乗合いタクシーのシステム構築。

南房総・館山地域公共交通活性化協議会の役割



○現段階でのイメージ

それぞれの市に固有の課題等(例:南房総市営路線バス富山線)は各市の会議で協議する。

※2市にまたがる広域的な案件は、合同の会議で協議する。

※計画についてもそれぞれの公共交通網形成計画は残した上で、広域の計画を策定する。

○今後のスケジュール案

- ・ 9月9日:第1回合同協議会開催
- ・ 11月上旬:南房総市調査業務着手
- ・ 1月下旬:第2回合同協議会開催
- ・ 3月下旬:南房総市調査事業完了
- ・ 4月~(令和2年度):2市合同公共交通網形成計画策定準備着手

館山市・南房総市の概要

	館山市	南房総市
住民基本台帳人口 (H31. 4. 1)	46,437人	38,081人
人口 (H27国調)	47,464人	39,033人
15歳未満	5,221 (11.0%)	3,608 (9.2%)
15～64歳	24,729 (52.1%)	18,591 (47.6%)
65歳以上 (高齢者)	17,514 (36.9%)	16,834 (43.1%)
世帯数	20,146世帯	15,061世帯
面積	110.15km ²	230.12km ²
人口密度	430.9km ² /人	169.6km ² /人
路線バスの運行	館山日東バス(株)・鴨川日東バス(株) ジェイアールバス関東(株)	館山日東バス(株)・鴨川日東バス(株) ジェイアールバス関東(株)
スクールバス (混乗)	5台	24台 (2台)
その他行政による交通サービス		市営路線バス (富浦線／富山線) 市営路線バス (スクール混乗・ 丸山線／北三原線)
タクシー会社	3社30台	2社8台
鉄道駅	館山駅、那古船形駅、九重駅	岩井駅、富浦駅、千倉駅 千歳駅、南三原駅、和田浦駅
自動車保有台数 (軽自動車含む)	37,990台 (1.22人/台)	32,715台 (1.16人/台)
病院・診療所	病院5施設・診療所41施設	病院3施設・診療所24施設
学校数	高校3校、中学校4校、小学校10校	高校1校、中学校6校、小学校6校

